令和元年2月14日
保健福祉計画検討委員会資料
地域福祉部会【 資料2-① 】

健康づくり計画【第4次】（令和元年度）の進捗状況について

＜令和元年12月末現在＞

■健康づくりの推進

保健福祉部健康推進課

基本的な方向1　　健康寿命の延伸（計画書　P22）

No.	計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
1	平均寿命以前に要介護認定を受ける割合は、令和元年12月末現在では、平成25年度と比較し男女ともに減少しています。 今後も、下記の基本的な方向２～４の取組みを推進することにより、健康寿命の延伸に資する目標達成を目指します。（資料2-②を参照） 参考：北海道健康増進計画「すこやか北海道21」が公表した当市の平成27年の健康寿命は平成22年と比べ延伸していました（男性80.74→80.82歳、女性85.72→86.83歳）		

基本的な方向2　　生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底（計画書　P23～36）

No.	計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ		〈妊産婦期、幼・少年期(15歳未満)〉	
1 がん	●妊娠期に禁煙・無煙についての知識を普及します。	●妊産婦への保健指導 ・母子健康手帳交付時 面接（元年度12月末）　188件 （30年度）　183件 （29年度）　208件 （28年度）　189件 （27年度）　199件 電話（元年度12月末）　38件 （30年度）　87件 （29年度）　87件 （28年度）　122件 （27年度）　128件	母子健康手帳交付時において、喫煙・受動喫煙状況を把握し、健康に与える影響などについて知識普及を図りました。 生涯を通じて健やかに生活するためにも、妊娠をきっかけに喫煙環境を見直し、家族全体の健康管理ができるよう、引き続き知識普及を図ります。
	●小中学校にて食生活に関する指導やがん予防の教育を行います。	●小中学校（学校教育課） （27～元年度12月末） ・小学校体育、中学校保健体育の保健分野において、がん予防を含めた生活習慣病などの病気の予防、喫煙や薬物乱用防止についての指導を継続して実施しています。	学校では、発達段階に応じ、実生活に結びつくような指導を各教科と関連づけて行うことで、児童生徒の健康への関心を高め、個人生活における健康・安全に関する理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることに大きく寄与しています。
	●女性のがん予防の知識の普及に努めます。	●子宮頸がん予防接種 （元年度12月末）3人 （30年度）　2人 （29年度）　0人 （28年度）　0人 （27年度）　0人	平成25年6月、厚生労働省より、子宮頸がん予防ワクチンの接種勧奨差し控えの指示があり、現在も勧奨を差し控えている状況です。
	●妊娠期の体重増加や高血圧等に対する保健指導を行います。	●妊婦健康診査費用の公費助成 ＊妊婦一般健康診査14回、超音波検査6回、妊婦精	妊婦健康診査費用の助成を行い、妊婦が必要な健診を受診することで、妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病の早期発見に役

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2 循環器疾患 3 糖尿病		密健康診査（必要時） ・一般健康診査、超音波検査数 （元年度12月末）　延3,553件 （30年度）　延4,530件 （29年度）　延4,994件 （28年度）　延5,867件 （27年度）　延6,029件 ●産婦健康診査費用の公費助成（元年7月～） ＊産婦一般健康診査2回 （元年度12月末）　延157件 ●マタニティスクール　1コース4回/年5コース ・参加数：（元年度12月末）26 人（4コース分） （30年度）　26人 （29年度）　35人 （28年度）　37人 （27年度）　31人 ・内容：お産の流れと妊婦体操、母乳育児、 妊娠中の栄養と食事、歯の健康、 先輩ママ・赤ちゃんとの交流会　等 ●情報提供・ポスター啓発 ・母性健康管理指導事項連絡カード利用　11月	立っています。 新たに、令和元年度から産婦健康診査費用の助成を行い、産後うつ病の予防、早期支援の介入に役立っています。 マタニティスクールにおいて、妊娠中の体重増加を把握し、高血圧と循環器疾患の関連、適切な体重増加などについて、知識の啓発を図っています。また、個別での栄養相談を行い、普段の食事と体重増加の関係について見直す機会としています。妊娠中の体重増加は、妊娠期だけでなく、出産後も影響を及ぼすことがあるため、妊娠中より健康管理ができるよう、引き続き実施します。
		●乳幼児健診や相談事業等で、栄養や食生活についての正しい知識を普及します。	●乳児（3・6・10ヶ月児）健診　年24回 ・受診数（元年度12月末）18回分 実385人/延644人 （受診率　99.5%） 3ヶ月児　実209人/延215人 6ヶ月児　実193人/延199人 10ヶ月児　実210人/延226人 （30年度）　実458人/延918人 （受診率　98.9%） （29年度）　実511人/延910人 （受診率98.2%） （28年度）　実509人/延977人 （受診率96.6%） （27年度）　実547人/延1,050人 （受診率97.6%） ・栄養相談数（元年度12月末）　320人 （30年度）　445人 （29年度）　483人 （28年度）　517人 （27年度）　457人 ●1歳6ヶ月児健診　年12回 ・受診数（元年度12月末）9回分 241人 （受診率100.4%）	乳幼児健診において、栄養相談、育児相談等を実施し、食事・栄養についての知識啓発を行っています。乳幼児期の食生活は、将来の生活習慣病・循環器疾患に関わるため、生活習慣病へ移行せず、健やかな成長を図るためにも、引き続き実施します。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	２循環器疾患　３糖尿病		（30年度）　332人 （受診率98.5%） （29年度）　338人 （受診率97.1%） （28年度）　339人 （受診率97.4%） （27年度）　353人 （受診率92.1%） ・栄養相談数（元年度12月末）　239人 （30年度）　332人 （29年度）　340人 （28年度）　340人 （27年度）　337人 ●3歳児健診　年12回 ・受診数（元年度12月末）9回分　291人 （受診率96.7%） （30年度）　368人 （受診率105.1%） （29年度）　409人 （受診率96.6%） （28年度）　325人 （受診率91.3%） （27年度）　368人 （受診率97.6%） ・栄養相談数（元年度12月末）　284人 （30年度）　358人 （29年度）　405人 （28年度）　321人 （27年度）　366人	
		●保育所に通園している児の身体計測を実施し、栄養状態や健康に関する指導を行います。	●保育所（子ども家庭課） ・身体計測（27～元年度12月末） 全ての公立保育所で毎月実施しています。	保育所においては、通園児の発育状況を把握し、傾向をとらえていく必要がありますことから、引き続き実施していきます。
		●学校にて生活習慣病等の知識普及を図ります。 ●学校健診を実施し、健康に関する指導を行います。	●小中学校（学校教育課） （27～元年度12月末） ・全ての小中学校において、食の全体計画、年間指導計画を作成し、各発達段階における食の指導を継続して実施しています。 （27～元年度12月末） ・全ての小中学校で学校保健計画を作成し、各種健診を行うとともに、健康の保持についての指導を実施しています。	学校においては、各発達段階で、系統性をもって指導することで、児童生徒の食育に関する関心や、健康の保持についての関心が高まりました。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
＜青年期、壮年期、高齢期(15歳以上)＞				
ライフステージ	1 がん	●乳幼児健診時に女性のがん予防の知識の普及に努めます。	●妊婦健康診査費用の公費助成 ・成人T細胞白血病抗体検査（がん予防）数 および子宮がん検診数 （元年度12月末）　189件 （30年度）　248件 （29年度）　245件 （28年度）　272件 （27年度）　285件 ●乳幼児健診 ・女性のがん検診受診勧奨パンフレット配布 （元年度12月末）　241人 （30年度）　332人 （29年度）　338人 （28年度）　339人 （27年度）　353人	妊婦健康診査費用の助成を行い、妊婦が必要な健診を受診することや、乳幼児健診時に母親へがん検診受診勧奨パンフレットを会場にて配布し、受診を促すことで、がんの早期発見に役立っています。
		●健康教室等で、がんやがん発症予防のための生活習慣について市民に情報を提供します。	●出前健康講座・健康教育（がん） （元年度12月末）0回 （30年度）　1回　参加数：18人 （29年度）　2回　参加数：31人 （28年度）　0回 （27年度）　1回　参加数：16人 ●情報提供・ポスター啓発 ・がん予防　通年	パンフレット配布等により、がんの知識啓発を行い、がん予防の意識づけに努めています。
		●がん検診の受診率を高めるための周知を強化します。 ●検診機関や医療機関における検診が効果的に実施できるよう連携を図ります。 ●最新のがん対策について情報を収集し、有効な検診の導入を検討します。	●がん等検診 ・周知方法：通年の周知方法のほかに、市広報の特集で検診の大切さを啓発しています。 町内回覧で検診の案内、たばこの害について周知しています。 ・胃がん検診受診数 （元年度12月末）　592人（受診率2.8%） （30年度）　1,167人（受診率5.5%） （29年度）　1,156人（受診率5.7%） （28年度）　1,308人（受診率6.2%） （27年度）　1,443人（受診率6.8%） ・ピロリ菌検査受診数 （元年度12月末）　444人（受診率81.5%） （30年度）　493人（受診率77.5%） ・大腸がん検診受診数 （元年度12月末）　908人（受診率 4.3%） （30年度）　1,619人（受診率 7.6%） （29年度）　1,701人（受診率 8.0%） （28年度）　1,638人（受診率 7.8%） （27年度）　2,418人（受診率11.6%）	将来的な胃がんリスク軽減のため、中学3年生を対象としたピロリ菌検査を平成30年度より開始しました。 がん検診受診率は全国、全道と比べて低い状況です。がん予防およびがんの早期発見のためＰＲ活動を積極的に行うと共に、がん検診実施機関と連携を取りながら受診率向上に努めます。 がん検診を受診し、精密検査未受診者に対し、がんの早期発見のため、今後も受診勧奨をしていきます。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	1　がん		(27年度)　2,418人(受診率11.6%) ・肺がん検診受診数 (元年度12月末)　1,130人(受診率5.3%) (30年度)　1,756人(受診率8.3%) (29年度)　1,856人(受診率8.7%) (28年度)　1,772人(受診率8.5%) (27年度)　1,829人(受診率8.8%) ・前立腺がん検診受診数 (元年度12月末)　198人(受診率6.6%) (30年度)　294人(受診率8.3%) (29年度)　323人(受診率7.9%) (28年度)　267人(受診率7.9%) (27年度)　323人(受診率8.0%) ・子宮がん検診受診数 (元年度12月末)　582人(受診率10.7%) (30年度)　979人(受診率14.1%) (29年度)　1,068人(受診率14.4%) (28年度)　1,031人(受診率15.1%) (27年度)　1,162人(受診率15.4%) ・乳がん検診受診数 (元年度12月末)　668人(受診率13.6%) (30年度)　1,215人(受診率17.5%) (29年度)　1,194人(受診率17.5%) (28年度)　1,197人(受診率18.2%) (27年度)　1,262人(受診率18.1%) ・肝炎ウイルス検診受診数 (元年度12月末)　547人 (30年度)　761人 (29年度)　893人 (28年度)　775人 (27年度)　1,525人 ・エキノコックス症検診受診数 (元年度12月末)　96人 (30年度)　176人 (29年度)　163人 (28年度)　123人 (27年度)　179人 ・骨粗しょう症検診受診数 (元年度12月末)　55人 (30年度)　125人 (29年度)　126人 (28年度)　75人 (27年度)　161人 ＊コールリコール実施 ハガキ発送　(元年度12月末)　2.164人 (30年度)　1,930人	

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	1 がん		クーポン配布 (29年度) 2,002人 (28年度) 555人 (27年度) 2.083人 (元年度12月末) 330人 (30年度) 220人 (29年度) 229人 (28年度) 72人 (27年度) 222人 ●がん検診・結核検診精密検査の受診勧奨数 (元年度12月末) 67件 (30年度) 110件 (29年度) 127件 (28年度) 147件 (27年度) 81件	
	2 循環器疾患 3 糖尿病	●特定健診の受診率向上に努めます。	●特定健診受診数（目標45.0%） (元年度12月末) 2,175人(実施率23.2%) (30年度) 3,527人(実施率38.1%) (29年度) 3,597人(実施率37.4%) (28年度) 3,795人(実施率38.5%) (27年度) 3,584人(実施率35.2%) ●眼底検査数 (元年度12月末) 1,145人 (30年度) 1,542人 (29年度) 1,520人 (28年度) 1,680人 (27年度) 1,690人 ●特定健診二次健診数 (元年度12月末) 14人 (30年度) 56人 (29年度) 45人 (28年度) 97人 (27年度) 53人 ●後期高齢者健診受診数（保険年金課） (元年度12月末) 851人（受診率 9.8%） (30年度) 1,193人（受診率15.26%） (29年度) 1,019人（受診率13.75%） (28年度) 921人（受診率13.22%） (27年度) 873人（受診率12.7%） ●循環器健診（生活保護）受診数 (元年度12月末) 3人 (30年度) 2人 (29年度) 1人 (28年度) 4人 (27年度) 3人	令和元年度はAIを活用した特定健診の受診勧奨を実施し、受診率見込みは前年度を上回る見込みです。 特定健診受診率向上のため、55ドック（55歳到達者に特定健診とがん検診を無料で実施）、対象者の特性に応じた受診勧奨通知、電話勧奨を行っています。今後も未受診対策の強化等を進めていきます。 国保以外の30歳代健診は受診者が少ない状況です。国保の30歳代健診は受診券を送付し、積極的にＰＲを行いました。 若年期からの健康づくりは、その後の健康状態を大きく左右することから、今後も積極的なＰＲに努め引き続き実施します。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2 循環器疾患 3 糖尿病		(27年度)　　8人 ●30歳代健診（国保以外）受診数 (元年度12月末)　　8人 (30年度)　　26人 (29年度)　　20人 (28年度)　　24人 (27年度)　　26人 ●国保30歳代健診受診数 (元年度12月末)　　65人（受診率 8.1%） (30年度)　　93人（受診率10.9%） (29年度)　　113人（受診率11.6%） (28年度)　　111人（受診率10.1%） (27年度)　　134人（受診率10.7%）	
		●特定健診の結果説明会の充実を図り、継続管理を行います。 ●特定保健指導の実施率の向上を図り、生活習慣改善の指導を行います。 ●特定健診で把握されたメタボリックシンドローム該当者以外の予防が必要な方に保健指導を行います。 ●高血圧対策、減塩対策を行います。 ●血糖値の高値者には早期に医療機関の受診を勧めます。	●特定保健指導実施数（目標60.0%） (元年度12月末)　　133人(実施率59.1%) (30年度)　　193人(実施率67.2%) (29年度)　　247人(実施率79.9%) (28年度)　　207人(実施率59.5%) (27年度)　　222人(実施率72.3%) ●重症化予防保健指導 (元年度12月末)　　220人 (30年度)　　815人 (29年度)　　707人 (28年度)　　586人 (27年度)　　606人 ※対象者に相談日を設けて実施した保健指導回数 ・特定健診結果説明会 (元年度12月末)　　91回 (30年度)　　117回 (29年度)　　91回 (28年度)　　53回 (27年度)　　69回 ・成人健康相談 (元年度12月末)　　10回 (30年度)　　7回 (29年度)　　16回 (28年度)　　23回 (27年度)　　27回 (相談日以外に訪問、来所相談等を実施) ●血糖値の高値者への早期受診勧奨数 (元年度12月末)　　26人 (30年度)　　74人 (29年度)　　83人 (28年度)　　73人 (27年度)　　51人	特定保健指導実施率は国の目標60.0%を達成しています。 特定健診を受けて、特定保健指導の対象とはなりませんが、結果が受診勧奨レベルの方に保健指導を行い、健康障害発症予防、重症化予防に取り組んでいます。 保健師・管理栄養士による家庭訪問を実施し、多くの方に保健指導を実施することができました。 生活習慣病重症化予防と脳卒中、心臓病、腎不全などの健康障害予防のため、引き続き着実に実施します。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
			（27年度）　　51人	
ライフステージ	2　循環器疾患　3　糖尿病	●広報誌、パンフレット等で循環器疾患・糖尿病の症状や予防法に関する知識普及に努めます。 ●生活習慣病等の病気や栄養・食生活についての正しい知識を普及し、健康を維持できるように支援します。	●生活習慣病予防教室（ﾃｰﾏ：LDLコレステロール） ・参加数（元年度12月末）3回1コース　実15人/延36人 （30年度）　3回2コース　実27人/延75人 （29年度）　3回2コース　実44人/延116人 （28年度）　3回1コース　実18人/延50人 （27年度）　3回2コース　実14人/延39人 ・内容：健康講座、栄養講座、運動実技、個別相談 ※「健康教室（ﾃｰﾏ：LDLコレステロール）」は生活習慣病予防教室に統合しました。 （28年度）　3回1コース　実18人/延52人 （27年度）　3回1コース　実13人/延33人 ●生活習慣病予防講演会 ・参加数 （元年度12月末） 「高血圧を予防して脳・心臓・腎臓を守ろう ～高血圧の最新情報～」　139人 ＊高齢者のための健康増進講演会と同時開催 （30年度） 「意外と知らないたばこの話」　62人 「健康管理は家庭血圧から ～あなたの血圧は大丈夫？～」　37人 （29年度） 「糖尿病網膜症について」　35人 「NO（脳）卒中予防について」　37人 （28年度） 「あなたの血糖値はどのくらいですか」　51人 「あなたの心臓が心配です ～狭心症・心筋梗塞の予防のために～」76人 （27年度） 「動脈硬化の病態と治療 ～虚血性心疾患を中心として～」　69人 「腎臓の仕組みとＣＫＤ（慢性腎臓病）」70人 ●健康情報展 ・来所数（元年度）　約1,100人 （30年度）　約1,350人 （29年度）　約1,200人 （28年度）　約　900人 （27年度）　約　900人 ・内容：測定ｺｰﾅｰ、体験ｺｰﾅｰ、展示ｺｰﾅｰ、健康相談、健康クイズラリー ●出前健康講座・健康教育（循環器疾患・糖尿病） （元年度12月末）2回　参加数：32人 ・内容：健康管理の重要性、健診結果の見方 （30年度）　3回　参加数：68人	講演会や教室を開催し、生活習慣病予防や脳卒中、心臓病、腎不全などの健康障害予防の知識啓発を行うとともに、自身の健診データから自分の体の状態を確認してもらい、生活習慣改善に向けた意識づけを図りました。 健康情報展では健康づくりのための運動や食事・栄養について、知識普及や体験の機会を提供しました。来所者のアンケートから生活習慣を見直すことに役立つとの感想を得ており、健康増進のため一次予防対策を引き続き実施します。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2 循環器疾患 3 糖尿病		（29年度）　3回　参加数：68人 （28年度）　3回　参加数：50人 （27年度）　5回　参加数：90人 ●健康手帳配布（希望者） （30年度）　47冊 （29年度）　78冊 （28年度）　36冊 （27年度）　35冊 *平成30年度で健康手帳の配布は終了しました。 令和元年度からは保健センターの計測コーナーに血圧手帳を設置して、希望者に配布しています。 ●情報提供・ポスター啓発 ・世界糖尿病デー/糖尿病週間　11月11日～17日	
		●市民と協働で健診の受診や循環器疾患や糖尿病予防の啓発を推進します。	●健康づくり推進員養成・継続研修 ・健康づくり推進員登録数 （元年度12月末）　52人（活動休止者は除く） （30年度）　53人 （29年度）　58人 （28年度）　55人 （27年度）　56人 ・内容：健康講話、栄養講話、運動実技、介護予防体験 ●継続研修 （元年度12月末）　実31人/延 66人 （30年度）　実34人/延135人 （29年度）　実40人/延106人 （28年度）　実36人/延 87人 （27年度）　実47人/延106人 ・内容 （元年度12月末）高血圧と臓器障害について 養成講座の一部に参加 （30年度）たばこと健康について 笑いヨガ 養成講座の一部に参加 （29年度）糖尿病網膜症について 養成講座の一部に参加 （28年度）正しいラジオ体操の方法について 養成講座の一部に参加 （27年度）笑いヨガ 養成講座の一部に参加	健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている「健康づくり推進員」（市民ボランティア）の活動を通して、健康に関する情報を市民に周知することができました。 今後も、市民が健康づくりを実践できるよう取り組んでいきます。

No.	計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
基本的な方向３　　社会生活を営むために必要な機能の維持および向上（計画書　P37～43）			

No.	計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
		<妊産婦期、幼・少年期(15歳未満)>	
ライフステージ　１　次世代の健康	●妊産婦や乳幼児の発育状態に応じた栄養指導の充実を図ります。 ●乳幼児健診や育児相談体制の充実を図ります。	●妊産婦への保健指導（再掲につき省略） ●妊産婦健康診査費用の公費助成（再掲につき省略） ●マタニティスクール（再掲につき省略） ●乳児健診、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診（再掲につき省略） ●情報提供・ポスター啓発（再掲につき省略） ●マタニティスクール両親コース　年4回 ・参加数（元年度12月末）　58人（3回分） （30年度）　80人 （29年度）　69人 （28年度）　78人 （27年度）　54人 ・内容：沐浴実習、妊婦体験、子育て体験談、着替え・おむつ替え実習 ●子育て世代包括支援センター開設 （愛称：きたひろすくすくネット：元年7月～） ・妊娠期のプラン提供　125件/妊娠届出126人 ・電話相談　17件 ・ケース検討　28回/139件 ・子育て検討会　9回/20件 ●胆道閉鎖症スクリーニング検査 ＊母子健康手帳の便色カードを活用 ・赤ちゃん訪問数（元年度12月末）　228件 （30年度）　262件 （29年度）　299件 （28年度）　329件 （27年度）　290件 ・乳児健診(3ヶ月児)受診数 （元年度12月末）　210件 （30年度）　258件 （29年度）　222件 （28年度）　382件 （27年度）　334件 ●母子保健推進員活動 ・家庭訪問数 （妊婦） （元年度12月末）　実 54件/延 54件 （30年度）　実 74件/延 74件	母子健康手帳交付時やマタニティスクール等の各事業において、妊娠中の生活や出産、育児などについて知識の啓発を図りました。 妊婦の栄養摂取や体重増加の状況を確認し、必要時個別の保健指導を実施するなど、早期からの食育に取り組み、妊娠期に生じやすい異常の予防と低体重児の出生の予防を図っています。当市の低出生体重児の出産は減少傾向にあり、全国的にみても改善しています。 乳幼児期の食生活は、子どもの健やかな成長と将来の健康づくりにとって重要でありますことから、食生活の重要性を啓発し、継続的に食育に取り組んでいきます。 朝食を欠食する子の割合が減少していず、全国的に悪くなっている傾向で、当市も同様の傾向にあります。食育と連動した運動の推進、特に「早寝、早起き、朝ご飯」を継続的に推進し、朝食の重要性を意識づけしていきます。 令和元年度は、妊娠期から子育て期までの世代を切れ目なく支えることを目指し、保健センター(健康推進課)と地域子育て支援センター「あいあい」が連携し、子育て世代包括支援センター「きたひろすくすくネット」を開始しました。母子保健マネージャー(保健師)と子育て支援コーディネーター(保育士)を専属で配置し、子育ての総合相談やケースマネジメントを行うとともに関係機関との連携を図っていきます。妊娠期の心身の健康づくりや子どもの健やかな成長発育とよりよい生活習慣の形成など家族全体の心身の健康づくりを推進していきます。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	1 次世代の健康		（29年度）　実 93件/延 93件 （28年度）　実121件/延121件 （27年度）　実207件/延348件 （乳児） （元年度12月末）　実 73件/延 73件 （30年度）　実134件/延134件 （29年度）　実118件/延122件 （28年度）　実189件/延191件 （27年度）　実245件/延345件 ・育児交流会（市と協働）　1コース2回/年5コース 参加数（元年度12月末）実 28組/延 45組（4ｺｰｽ分） （30年度）　実 69組/延107組 （29年度）　実 83組/延125組 （28年度）　実 91組/延149組 （27年度）　実 61組/延107組 内容：離乳食講話、むし歯予防講話、救急救命講座、手遊び、交流会　等 ●赤ちゃん訪問 （元年度12月末）228件 うち 出生体重2,000ｇ未満　：　1件 2,000～2,499ｇ：　9件 （30年度）　262件 うち 出生体重2,000ｇ未満　：11件 2,000～2,499ｇ：18件 （29年度）　299件 うち 出生体重2,000ｇ未満　：　6件 2,000～2,499ｇ：22件 （28年度）　329件 うち 出生体重2,000ｇ未満　：　3件 2,000～2,499ｇ：10件 （27年度）　290件 うち 出生体重2,000ｇ未満　：　5件 2,000～2,499ｇ：17件 ●ふたご・みつごの育児交流会（28年度終了） ・参加数（28年度）2回　3組 （27年度）3回　6組 ●あそび教室（1歳6ヶ月児健康診査事後集団指導） 年24回 ・参加数（元年度12月末）実 16人/延140人（18回分） （30年度）　実 20人/延197人（23回分） （29年度）　実 24人/延198人 （28年度）　実 26人/延200人 （27年度）　実 23人/延179人 ●予防接種 ・四種混合接種数（元年度12月末）　844件	あそび教室は、1歳6ヶ月児健診後、早期から集団指導を行い、保護者に対して幼児の成長発達を促すためのかかわり方を助言し、幼児があそびの経験を積む場となっています。 教室を通して、子ども発達支援センターへの通所などの児童発達支援につながったケースもあります。令和元年７月から子ども発達支援センターの会場が移転した後も、参加者数はほぼ横ばいで、幼児の発達支援のため、引き続き実施します。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	1 次世代の健康		二種混合接種数（元年度12月末）　[illegible]件 （30年度）　1,148件 （29年度）　1,258件 （28年度）　1,342件 （27年度）　1,253件 ・二種混合接種数（元年度12月末）　301件 （30年度）　414件 （29年度）　423件 （28年度）　390件 （27年度）　602件 ・ＢＣＧ接種数　（元年度12月末）　199件 （30年度）　283件 （29年度）　302件 （28年度）　330件 （27年度）　315件 ・ポリオ接種数　（元年度12月末）　0件 （30年度）　1件 （29年度）　25件 （28年度）　42件 （27年度）　69件 ・麻しん･風しん接種数 （元年度12月末）　495件 （30年度）　710件 （29年度）　736件 （28年度）　729件 （27年度）　777件 ・ヒブ接種数　（元年度12月末）　834件 （30年度）　1,116件 （29年度）　1,230件 （28年度）　1,320件 （27年度）　1,270件 ・小児用肺炎球菌接種数 （元年度12月末）　840件 （30年度）　1,116件 （29年度）　1,228件 （28年度）　1,323件 （27年度）　1,269件 ・水痘接種数　（元年度12月末）　415件 （30年度）　643件 （29年度）　647件 （28年度）　609件 （27年度）　706件 ・日本脳炎接種数（元年度12月末）　1,859件 （30年度）　2,482件 （29年度）　2,082件 ・B型肝炎接種数（元年度12月末）　602件	

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	1 次世代の健康		・B型肝炎接種数（元年度12月末）　602件 （30年度）　833件 （29年度）　889件 ・インフルエンザ接種数 （障がい児）（元年度12月末）　67件 （30年度）　78件 （29年度）　74件 （28年度）　86件 （27年度）　72件 ＊任意の予防接種として障がい児・者も対象に接種費用の助成を行っています。 ●出前健康講座・健康教育（母子） （元年度12月末）　9回　参加数：131人 ・内容：イヤイヤ期ののり越え方・付き合い方、子どもの生活リズム・成長ホルモン、トイレトレーニング、すくすくネット （30年度）　10回　参加数：120人 （29年度）　10回　参加数：116人 （28年度）　7回　参加数：85人 （27年度）　7回　参加数：54人 ●情報提供・ポスター啓発 ・SIDS（乳幼児突然死症候群）　11～12月 ＊母子健康手帳交付時にもパンフレット配布 ・アレルギーポータル　12月 ・幼児の化学物質等誤飲事故予防　1～3月	
		●保育所にて食育目標を作成し、食育の啓発に努め、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が身につけられるよう支援します。 ●学校で食に関する指導計画や運動計画を作成し、健康づくりに活用します。	●保育所（子ども家庭課） （27～元年12月末） ・全ての公立保育所で食育の啓発を実施しています。 ●小中学校（学校教育課） （27～元年度12月末） ・全ての小中学校で、食に関する指導の全体計画、学校保健計画を作成し、各発達段階に応じた指導を継続して実施しています。	乳幼児期に規則正しい生活、バランスのとれた食生活を身につけることは、適切な生活習慣や豊かな人間性を育成することに繋がるため、保育所においても食育の啓発を引き続き実施します。 学校においては、各発達段階で、系統性をもって指導することで、児童生徒の食育に関する関心や、健康の保持についての関心が高まりました。
ライフステージ	2 高齢者の健康	●生活習慣や健康管理について市民に情報を提供します。 ●個々に対応した健康づくりに関する指導・助言を行います。	●生活習慣病予防教室（再掲につき省略） ●生活習慣病予防講演会（再掲につき省略） ●特定健診（再掲につき省略） ●後期高齢者健診（再掲につき省略） ●30歳代健診（再掲につき省略） ●特定保健指導（再掲につき省略）	生活習慣病重症化予防と健康障害予防は、要介護状態とならないための健康づくりでもあるため、実施方法を検討しながら引き続き実施します。新規に介護認定を受ける者は、減少傾向にあります。 市役所新庁舎1階の保健センターでは、市民が自由に来庁時に測定できる健康測定コーナーを設けています。いつでも

<青年期、壮年期(65歳未満)>

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2　高齢者の健康		●重症化予防保健指導（再掲につき省略） ●予防接種 ・インフルエンザ接種（任意）数 （障がい者）（元年度12月末）　28件 （30年度）　97件 （29年度）　18件 （28年度）　20件 （27年度）　22件 （高齢者）（元年度12月末）　8,082件 （30年度）　7,330件 （29年度）　6,851件 （28年度）　7,053件 （27年度）　6,766件 ・成人用肺炎球菌接種数 （障がい者）（元年度12月末）　0件 （30年度）　6件 （29年度）　146件 （28年度）　163件 （27年度）　163件 （高齢者）（元年度12月末）　447件 （30年度）　1,654件 （29年度）　1,599件 （28年度）　1,602件 （27年度）　1,602件 ●保健センター　健康測定コーナー ・身長・体重（元年度12月末）　239人 （30年度）　302人 （29年度）　462人 ・体組成（元年度12月末）　187人 （30年度）　307人 （29年度）　555人 ・血管（元年度12月末）　176人 （30年度）　289人 （29年度）　610人 ・血圧（元年度12月末）　176人 （30年度）　289人 （29年度）　1,635人 ・物忘れ（元年度12月末）　169人 （30年度）　264人 （29年度）　656人 ●出前健康講座・健康教育（成人） （元年度12月末）1回　参加数：3人 （30年度）1回　参加数：14人 （29年度）0回 （28年度）0回	自分のタイミングに合わせて測定することができ、自身の健康を確認する場としての活用を図ります。測定の方法や測定値の意味、見方など、希望に応じて相談を受け、健康づくりに役立つよう取り組んでいきます。 　また、各健康週間・月間に応じて、ポスターなどで情報提供や啓発を進めていきます。

No.	計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
		（27年度）　　2回　参加数：46人 ・内容：女性のこころとからだの変化、認知症の予防 ●情報提供・ポスター啓発 ・熱中症予防啓発　6～7月 ・蚊・ダニ媒介感染症予防啓発　7月 ・健康増進普及月間　9～10月 ・結核予防週間　　9月 ・骨粗鬆症　　9～10月	
		<高齢期(65歳以上)>	
ライフステージ 2　高齢者の健康	●適切な栄養や運動についての知識を普及します。 ●各地区で介護予防事業を実施し、介護予防を推進します。 ●認知症予防や転倒予防、ロコモティブシンドロームの知識普及を図ります。	●健診事後指導数 （元年度12月末）　実288人（健康推進課） （30年度）　実735人（健康推進課） （29年度）　実640人（健康推進課） （28年度）　実　5人（高齢者支援課） （27年度）　実　5人（高齢者支援課） ●栄養指導数 （元年度12月末）　実70人/延80人 （30年度）　実55人/延62人 （29年度）　実44人/延44人 （28年度）　実24人/延38人 （27年度）　実23人/延25人 ●健康増進講演会 （元年度）　1回　参加数：139人 「高血圧を予防して脳・心臓・腎臓を守ろう ～高血圧の最新情報～」 ＊生活習慣病予防講演会と同時開催 （30年度）　1回　参加数：　51人 （29年度）　1回　参加数：115人 （28年度）　2回　参加数：152人 （27年度）　1回　参加数：550人 ●出前健康講座 （元年度12月末）　12回　参加数：延230人 （30年度）　23回　参加数：延461人 （29年度）　30回　参加数：延632人 （28年度）　20回　参加数：延463人 （27年度）　24回　参加数：延527人 ●脳の健康教室　10回1コース（30年度で終了） ・内容：読み書き・計算の学習と、学習サポーターとの交流 （30年度）　参加数：実13人 （29年度）　参加数：実18人 （28年度）　参加数：実17人	各教室・講座等は、転倒予防や生活習慣病重症化予防を目的に行っています。プログラムに、栄養や口腔ケアの講話等も盛り込みながら、幅広く介護予防を啓発しています。 課題としては、多くの市民が参加し、かつ日常生活に取り入れて継続できるようにすることです。 そのために、地域に介護予防を普及啓発する担い手（市民）であるサポーター育成を進めながら、身近な地域で活動が継続されるよう、市民の自主的活動への支援を強化していきます。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2　高齢者の健康		(28年度)　参加数：実17人 (27年度)　参加数：実19人 ●生活講座 ・内容：缶詰や加工食品などを利用した調理実習 バランスのとれた食事や減塩の工夫などに関する講話 (元年度12月末)　参加数：実20人(3回2コース) (30年度)　参加数：実19人(3回2コース) (29年度)　参加数：実13人(3回2コース) (28年度)　参加数：実11人(5回1コース) (27年度)　参加数：実15人(5回1コース) ●いきいき百歳体操リーダー養成講座(3回1コース) ・内容：いきいき百歳体操の実践、住民主体による運動の普及の推進 (元年度12月末) 2コース　参加数：実29人 (30年度)　2コース　参加数：実30人 (29年度)　2コース　参加数：実26人 (28年度)　2コース　参加数：実25人 (27年度)　1コース(4回)　参加数：実21人	

基本的な方向4　　生活習慣および社会環境の改善（計画書　P44～63）

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
			〈妊産婦期、幼・少年期(15歳未満)〉	
ライフステージ	1　栄養・食事	●妊娠期の栄養について指導を行います。 ●乳幼児健診や教室等にて個々に応じた栄養相談を行います。 ●授乳期・離乳食期・幼児食期へとスムーズに移行できるように支援します。	●妊産婦への保健指導（再掲につき省略） ●マタニティスクール（再掲につき省略） ●乳児健診、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診（再掲につき省略） ●保育所による食育の啓発（再掲につき省略） ●出前健康講座・健康教育（栄養・食事） (元年度12月末) 3回　参加数：46人 ・内容：離乳食を学ぼう (30年度)　3回　参加数：48人 (29年度)　5回　参加数：76人 (28年度)　4回　参加数：84人 (27年度)　1回　参加数：　7人 ●食育講演会 (元年度) 「ファイターズの管理栄養士に学ぶ元気なこどものための毎日のごはん」　53人 (30年度) 「夏休みだって早寝・早起き・朝ごはん」　27人 (29年度)	母子健康手帳交付時やマタニティスクール等の各事業において、妊娠中の栄養などについて知識の啓発を図るとともに、妊娠中から子育て中の保護者の学習や交流の機会を提供しています。妊婦のやせの減少に向け、妊娠期における栄養について、知識の普及啓発を継続的に実施していきます。 乳幼児期においても各事業の実施により、子育てが始まって間もない保護者へ栄養や食事に関する相談を実施しています。 妊娠期から乳幼児期の相談支援が一貫した体制で行えるよう、また保護者が安心して育児を行えるよう、各事業を継続して実施します。 令和元年度の食育に関する取組として、毎日３食しっかり食べることで必要な栄養が摂れること、主食・主菜・副菜の３つの働きの物を食べることで体が作られていくこと、運動する時の食事の工夫などについて、実際のファイターズ選手の食事と関連させながら、元気な子どものために必要な食事について考えることのできるテーマで講演会を開催しました。しかし、参加数の低迷が課題であり、講演会のテーマの

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	1 栄養・食事	●保育所・学校にて子どもや保護者へ食育を推進します。	「野菜の力を引き出す”ごはん”の食べ方」　76人 (28年度) 「心と体をはぐくむ食育～大人も子どもも笑顔の食卓へ」　21人 (27年度) 「食べることは生きること」　47人 ●食農教室（農政課） ・参加数（元年度12月末）　11組（1回分） (30年度)　26組（2回分） (29年度)　10組 (28年度)　9組 (27年度)　9組 ●小中学校（学校教育課） (27～元年度12月末) ・全ての小中学校で食の指導に関する全体計画を作成し、各発達段階に応じた指導を継続して実施しています。 ●情報提供・ポスター啓発 ・食生活改善への理解促進啓発　5月 ・食育月間　6月	工夫や、参加型・体験的要素を取り入れた内容などの検討を引き続き行っていきます。 学校においては、各発達段階で、系統性をもって指導することで、児童生徒の食育に関する関心や、健康の保持についての関心が高まりました。
	2 身体活動・運動	●乳幼児健診や教室等にて親子遊びや運動などの大切さについて指導・助言を行います。 ●保育所・子育て支援センターでは遊びの紹介やからだを動かすことの楽しさを伝えます。	●元気フェスティバルでの赤ちゃんゲーム （市と母子保健推進員との協働） ・参加数（元年度）48組 (30年度) 53組 (29年度) 58組 (28年度) 46組 (27年度) 44組 ●保育所（子ども家庭課） (27～元年度12月末) 全ての公立保育所で実施しています。	乳幼児期からからだを動かすことは、健康なからだづくりに必要な運動習慣を身につけることに繋がるため、乳幼児健診や保育所および子育て支援センターにおいて、引き続き遊びの紹介やからだを動かすことの楽しさを伝えていきます。
		●学校で体育や部活動の充実を図り、健康・体力づくりを推進します。 ●体力づくりのためのスポーツ活動を推進します。	●小中学校（学校教育課） (27～元年度12月末) ・全ての小中学校で体力テストを実施し、各学校において分析を行い、体力向上プランを作成し、一校一実践などの体力向上の取り組みを継続して実施しています。 ●市民スポーツ活動推進事業（社会教育課） ・スーパードッジボール大会 参加数（元年度12月末）　15チーム/187人 (30年度)　24チーム/286人 (29年度)　24チーム/279人 (28年度)　24チーム/290人 (27年度)　24チーム/290人 ・いちにのジャンプ大会 参加数（元年度12月末）　14チーム/148人	学校においては、体力テストの結果に基づき一校一実践の取組や、体育授業における運動量の確保、効果的な身体の動かし方の指導など指導方法を工夫することで、児童生徒の体育や運動への関心や意欲を高めることに寄与しました。 市民スポーツ活動推進事業では、子ども達へスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツ大会等を開催し、子ども達の体力づくりを推進しました。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2 身体活動・運動		参加数（元年度12月末）　14チーム/148人 （30年度）　23チーム/260人 （29年度）　32チーム/353人 （28年度）　33チーム/386人 （27年度）　30チーム/335人 ・スナッグゴルフ大会（年2回開催） 参加数（元年度12月末）　14人 （30年度）　15人（6月10日） 胆振東部地震で中止（9月15日） （29年度）　24人 （28年度）　23人 （27年度）　22人 ・30キロ歩ける会 参加数（元年度12月末）　中止 （30年度）　120人 （29年度）　123人 （28年度）　141人 （27年度）　138人 ・インドア子ども相撲大会 （元年度12月末）　2月8日（土）開催 （30年度）　62人 （29年度）　90人 （28年度）　145人 （27年度）　150人	
	3 休養・こころの健康	●妊娠期から心の健康づくりを支援します。 ●妊産婦が孤立しないように支援します（訪問・健診・相談など）。 ●乳児健診や育児相談体制の充実を図ります。 ●子どもや保護者の悩みなどに対して相談を行います。	●仲間づくり支援 （社会教育課） ・ホームページを活用して社会教育団体として登録している育児サークルを紹介しています。 （27年～元年度12月末） （健康推進課） ・マタニティスクールクラス会〈市主催分〉 （元年度12月末）　3回　参加数：16組 （30年度）　4回　参加数：19組 （29年度）　5回　参加数：27組 （28年度）　5回　参加数：25組 （27年度）　5回　参加数：31組 ・マタニティスクールクラス会自主開催支援（同クラス会自主開催のうち1年間について市が会場確保） （元年度12月末）　1回 （30年度）　3回 （29年度）　6回 （28年度）　5回 （27年度）　16回	マタニティスクール等が、仲間づくりのきっかけとなり、出産後も連絡がとれるよう、クラス会を開催しています。交流の機会があることで、参加者同士が結びつき、孤立化の防止に努めています。また、出産後も会うことで、妊娠期から継続した支援を行っています。 また、マタニティスクールクラス会では、地域子育て支援センターの保育士が講師となって手遊びなどを紹介し、日常的に地域子育て支援センターの利用に結びつくよう働きかけています。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	3　休養・こころの健康	●子育て支援センター等で育児について支援します。	●子育て支援センター事業（子育て支援担当） ・子育て支援コーディネーター専任職員配置（27年度～） ・子育て支援事業の利用にあたっての相談 相談件数（元年度12月末）　424件 （30年度）　720件 （29年度）　336件 （28年度）　306件 （27年度）　415件 ・子育て講座 （元年度12月末）　26回　参加数:557人 うち　遊びに関する子育て講座12回　参加数:256人 （30年度）　31回　参加数：670人 うち　遊びに関する子育て講座12回　参加数:306人 （29年度）　25回　参加数:645人 うち　遊びに関する子育て講座　12回　参加数:307人 （28年度）　26回　参加数:557人 うち　遊びに関する子育て講座　12回　参加数:291人 （27年度）　36回　参加数:621人 うち　遊びに関する子育て講座　14回　参加数:262人 ・みんなの広場（元年度12月末）18,692人 （30年度）　22,577人 （29年度）　19,628人 （28年度）　10,833人 （27年度）　10,363人 ・出前みんなの広場（元年度12月末）　67人(18回) （30年度）　173人(24回) （29年度）　55人(14回) （28年度）　182人(24回) （27年度）　209人(23回) ●子育てサイトメール相談(29年1月開設) 相談件数（元年度12月末）　9件(子ども家庭課) （30年度）　17件(子ども家庭課) （29年度）　11件(子育て担当) ●子育てガイドの発行 （元年12月末）作成予定 3,000部(子ども家庭課) （29年12月）　配布数　3,000部(子育て担当) ●子育てアプリの運用（元年7月～）	子育て支援センターの利用者の増加に伴い、相談件数が増えています。何度も来館し、職員とのコミュニケーションが増え、顔見知りの関係性ができることで、相談がしやすくなっていると考えられます。子育て世代包括支援センター（きたひろすくすくネット）が令和元年７月から開設し、更に、保健師と保育士の連携をはかりながら、今後も引き続き、子育て中の親の不安感などを軽減するため、相談支援の充実を図るとともに、地域の子育て支援事業等の情報を提供します。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	3 休養・こころの健康	●関係機関と連携を図り、児童虐待対策を行います。	●ハイリスク妊婦把握・支援事業 ＊全妊婦を対象としたアンケートと保健師による面接（または電話） ・アンケート実施数（元年度12月末）　226件 （30年度）　271件 （29年度）　295件 （28年度）　311件 （27年度）　341件 ●子ども虐待予防ケアマネジメント事業 ・虐待要因チェックによるスクリーニング数 （元年度12月末）　実201件 （30年度）　実259件 （29年度）　実298件 （28年度）　実327件 （27年度）　実287件 ●家庭児童相談室運営事業（子ども家庭課） ・相談件数（元年度12月末）　延 3,754件 （30年度）　延 3,518件 （29年度）　延 4,001件 （28年度）　延 3,596件 （27年度）　延 3,150件	ハイリスク妊婦把握・支援事業等にて、妊婦の身体的・精神的・社会的状況について把握し、妊婦の不安軽減や早期支援を行っています。今後も引き続き実施します。 赤ちゃん訪問においても、産後うつ病の予防や早期発見のため、産後の心身の状態を把握するためのアンケートや育児・養育環境状況などの確認や助言を行い、安心して子育てができるよう支援を実施しました。今後も引き続き実施します。 乳児健診、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診において、未受診者確認に努めています。乳幼児健診の未受診率は全国的に改善傾向であり、今後も状況把握に努めていきます。また、関係機関と連携しながら育児支援を実施することができました。 家庭児童相談室では、児童虐待等に係る相談内容は多岐にわたっており、引き続き関係機関と連携をとりながら相談支援の充実を図ります。
		●性教育などの教育活動を通し、生命の大切さや思いやりの心の習得を図ります。	●小中学校（学校教育課） （27～元年度12月末） ・全ての小中学校で、性教育の学年別指導計画を作成し、道徳などの内容と関連付けながら発達段階に応じた指導を継続して実施しています。 ●思春期講座の実施 ・高校生対象（元年度12月末）0回（2月実施予定） （30年度）　2回　実 64人 （白樺高等養護学校3学年） （29年度）　1回　実 32人 （白樺高等養護学校3学年） （28年度）　1回　実280人 （北広島西高校1学年） ＊千歳保健所と合同 （27年度）　1回　実300人 （北広島西高校1学年） ＊千歳保健所と合同 ・障がい者対象（元年度12月末）0回 （30年度）　1回　実　8人 （29年度）　1回　実　8人 （28年度）　1回　実 10人 （27年度）　1回　実　8人 ●情報提供・ポスター啓発 ・自殺予防いのちの電話　6月～	発達段階に応じて、道徳などと関連付けながら健康や性教育、命の尊さ等についての指導に系統性を持って指導することで、児童生徒の理解を深めることに寄与しました。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
			・自殺予防への3の電話　　6月 ・自殺予防週間・働く人の電話相談室　　9月 ・自殺対策強化月間　2月～ ・睡眠と健康　30年10～12月	
ライフステージ	4 飲酒	●妊娠期のアルコールの害に関する情報を提供します。 ●母乳とアルコールの関係について情報を提供します。 ●アルコールが及ぼす健康への影響について、ポスター掲示やパンフレットの配布、広報等により普及啓発を行います。 ●学校にてアルコールに関する教育を行います。	●妊産婦への保健指導（再掲につき省略） ●マタニティスクール（再掲につき省略） ●乳児健診、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診（再掲につき省略） ●小中学校 （27～元年度12月末） ・小学校体育、中学校保健体育の保健分野において、喫煙や飲酒、薬物乱用防止についての指導を継続して実施しています。	妊娠届出時の妊婦の飲酒率は横ばいであり、全国的には改善傾向にあります。母子健康手帳交付時やマタニティスクール等の各事業において、妊娠期・授乳期の飲酒が胎児・乳児に与える害について知識の啓発を行いました。 妊産婦の飲酒率の減少に向け、体へ及ぼす影響についての普及啓発を継続的に実施していきます。
	5 喫煙	●妊娠中や乳児期からたばこ等の害に関する情報を提供します。 ●禁煙について普及啓発を行います。 ●学校でたばこに関する教育を行います。	●妊産婦への保健指導（再掲につき省略） ●施設の分煙化・禁煙化 ・おいしい空気の施設（北海道・千歳保健所） 北広島市内登録数 （元年度12月末）　8施設 飲食店：5、学校等：0、医療機関・社会福祉施設等：0、体育施設・娯楽施設：2、社会・文化施設：0 、小売業・サービス業：1件 （30年度）　8施設 （29年度）　26施設 （28年度）　26施設 （27年度）　24施設 ●小中学校 （27～元年度12月末） ・小学校体育、中学校保健体育の保健分野において、喫煙や飲酒、薬物乱用防止についての指導を継続して実施しています。 ●未成年喫煙・薬物防止教育（千歳保健所） （元年度12月末）希望なし （30年度）　希望なし （29年度）　東部小6年生 児童63名、担任2名 「小学校のうちに知っておこう！たばこと健康」 （28年度）　東部小6年生 児童68名、担任3名、他1名 「たばこと健康」 （27年度）　東部小6年生	妊娠届出時の妊婦の喫煙率は減少傾向にあり、全国的な傾向と同様です。母子健康手帳交付時やマタニティスクール等の各事業において、妊娠期・授乳期の喫煙が胎児・乳児に与える害について知識の啓発を行いました。 平成30年7月に公布された「健康増進法の一部を改正する法律」の施行により、おいしい空気の施設については特定施設が除かれたことで、施設数が減少となりました。 （※特定施設：学校、病院、児童福祉施設、行政機関の庁舎等） 未成年喫煙防止講座については、毎年、年度末に希望調査を行い、希望のあった学校に実施しています。例年、千歳保健所管内では1～3件の希望があり、実施しています。 喫煙率の減少に向け、今後も体へ及ぼす影響についての普及啓発を図るとともに、健康増進法における受動喫煙防止についても、周知を図っていきます。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	6 歯・口腔の健康		（27年度）　　東部小6年生 緑ヶ丘小4年生 「たばこと健康」 ●情報提供 ・健康情報展、各講演会等でパンフレット配布 ・世界禁煙デー　　4～6月 ・タバコの害・受動喫煙防止ホームページ掲載	
		●ライフサイクルに応じた歯科保健指導を行います。	●乳児健診　年24回 ・歯科相談数（元年度12月末）206人 （30年度）　307人 （29年度）　334人 （28年度）　313人 （27年度）　371人 ●1歳6ヶ月児健診　年12回 ・歯科相談数（元年度12月末）243人 （30年度）　332人 （29年度）　344人 （28年度）　334人 （27年度）　338人 ●3歳児健診　年12回 ・歯科相談数（元年度12月末）286人 （30年度）　355人 （29年度）　398人 （28年度）　326人 （27年度）　363人 ●フッ化物塗布　年12回 ・実施数（元年度12月末）実190人/延227人（9回分） （30年度）　実224人/延293人 （29年度）　実221人/延286人 （28年度）　実221人/延292人 （27年度）　実220人/延298人	3歳児のう歯に罹患している割合は減少傾向にあります。全国的にも同様の傾向で、乳幼児健診やフッ化物塗布事業等でう歯予防について啓発し、歯と口腔の健康が維持できるよう努めています。
		●保育所・学校では歯科健診を実施し、う歯予防に努め、う歯のある児童・生徒に受診を促します。 ●子どもの歯と口腔の健康を保持するため、幼児期のフッ素塗布に加え、保育所、小学校でフッ化物洗口を実施します。	●保育所（子ども家庭課） ・歯科健診 （27～元年度12月末）全ての公立保育所で実施しています。 ●小中学校（学校教育課） （27～元年度12月末） ・全ての小中学校で学校保健計画を作成し、全児童生徒を対象に歯科専門医による歯科健診を継続して実施しています。 ●フッ化物洗口（28年度～） ・全ての公立保育所の希望者に実施（4歳児以上）しています。 ・全ての小学校の希望者に実施しています。	学齢期のう歯数は減少しているものの、北海道全体ではう歯の本数が多い状況にあります。う歯予防を乳幼児期から習慣づけることは、学齢期以降のう歯の減少に繋がるため、保育所における歯科健診を引き続き実施します。 学校においては、全児童生徒を対象とした歯科専門医による歯科健診を実施することで、児童生徒の口腔衛生の保持に寄与しました。 また、永久歯のう歯を予防するため、フッ化物洗口を継続的に実施していきます。 歯の生え変わりが始まる幼児期から学齢期まで継続して健診を実施し、う歯の早期発見、フッ化物の応用や健康講話などで、歯と口腔の健康維持に努めていきます。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	6 歯・口腔の健康		●北広島市フッ化物洗口事業実施協議会 ・構成員：歯科医師・小児科医師・薬剤師・小学校校長会・小学校PTA連合会・保育園保護者　等 （元年度12月末）　0回 （30年度）　0回 （29年度）　0回 （28年度）　1回 （27年度）　2回 ●出前健康講座・健康教育（歯科） ・内容：子どものむし歯予防、歯科相談 （元年度12月末）　3回　参加数：59人 （30年度）　4回　参加数：85人 （29年度）　3回　参加数：74人 （28年度）　7回　参加数：87人 （27年度）　2回　参加数：20人 ●親と子のよい歯のコンクール（歯科医師会） （元年度）　6月 8日　4名口腔内診査・表彰 （30年度）　6月 9日　4名口腔内診査・表彰 （29年度）　6月10日　7名口腔内診査・表彰 （28年度）　6月 4日　0名口腔内診査・表彰 （27年度）　5月30日　4名口腔内診査・表彰	
ライフステージ			**<青年期、壮年期、高齢期(15歳以上)>**	
	1 栄養・食事	●健康教室や健康相談にて生活習慣改善や食生活の指導を行います。 ●バランスのとれた食事ができるよう支援します。 ●広報紙等で正しい食生活について知識の啓発を行います。 ●市民と協働で適切な栄養摂取を推進します。	●生活習慣病予防教室（再掲につき省略） ●生活習慣病予防講演会（再掲につき省略） ●出前健康講座（再掲につき省略） ●後期高齢者健診（再掲につき省略） ●30歳代健診（再掲につき省略） ●特定保健指導（再掲につき省略） ●重症化予防保健指導（再掲につき省略） ●健康情報展（再掲につき省略） ●健康づくり推進員養成（再掲につき省略） ●情報提供・ポスター啓発（再掲につき省略） ●出前健康講座・健康教育（栄養・食事） （元年度12月末）0回 ・内容：食生活講座 （30年度）　2回　参加数：23人 （29年度）　4回　参加数：86人 （28年度）　2回　参加数：35人 （27年度）　4回　参加数：59人	3食規則正しく、バランス良く食べることの重要性を周知し、生活習慣改善の行動変容につながるよう取組みを継続していきます。 健康的な生活を維持する人の増加を目指し、市の健康に関する事業や情報を提供するボランティアの育成を推進していきます。
		●身近で安全なウォーキングを推進します。	●ウォーキングマップの活用 ・ウォーキングマップ(改訂第2版を29年度作成) （27～元年12月末）市内公共施設等にて配布して	ウォーキングマップの周知をはかりながら、身体活動の基本である“歩く”ことを通して、運動のきっかけづくりができるよう、市民ウォーキングを健康づくり推進員と協働で企

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2 身体活動・運動		います。 ・市民ウォーキング（健康づくり推進員と協働） （30年度）　1回　86人 （29年度）　2回　175人 （28年度）　2回　201人 （27年度）　2回　196人 ・正しい歩き方講座 （元年度12月末）　1回　21人	画してきました。令和元年度には、ウォーキング初心者を対象に、正しいフォームやウォーキングの頻度について実技も交えて学習する講座を実施しました。
		●体育館でスポーツプログラムの提供やトレーニング指導、相談事業等の充実を図ります。 ●市民と協働で適切な運動を推進します。 ●健康づくりや生きがいのあるスポーツ活動を推進します。	●健康管理プログラムによる体力づくりへの助言（総合体育館、体育協会） ・利用数（元年度12月末）　98,087人 （30年度）　130,811人 （29年度）　133,083人 （28年度）　129,459人 （27年度）　144,596人 ●きたひろしま30ｋｍロードレース（社会教育課） 参加数（元年度12月末）　1,698人 （30年度）　1,570人 （29年度）　1,239人 （28年度）　1,348人 （27年度）　1,362人	総合体育館にて体育協会による健康づくり、体力づくり講座を実施し、健康で生きがいのあるスポーツ活動の推進を図るために、きたひろしま30kmロードレースを開催しました。 今後も運動習慣の定着に向け、ウォーキングの普及など運動に親しむ環境の整備を図っていきます。
		●運動教室等の充実を図ります。 ●高齢者のための健康運動教室や相談等を各地区単位で行います。 ●運動機能低下の高齢者に対して、運動機能向上教室を実施します。	●介護予防事業（高齢者支援センター主催分） ・西の里「コグニサイズ」 （元年度12月末）　7回　延170人 （30年度）　12回　延267人 （29年度）　17回　延326人 （28年度）　12回　延256人 （27年度）　9回　延214人 ・大曲・西部「ふまねっと」 （元年度12月末）　18回　延624人 （30年度）　23回　延788人 （29年度）　25回　延773人 （28年度）　22回　延679人 （27年度）　16回　延434人 ・東部・団地「元気ぴんぴん体操」 （元年度12月末）　35回　延478人 （30年度）　46回　延614人 （29年度）　35回　延464人 （28年度）　36回　延533人 （27年度）　36回　延468人	平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業がスタートしたことにより、これまでの介護予防事業の取組みが変化しつつあります。 高齢者支援センターが主催する介護予防事業（運動教室）だけではなく、スーパーと協働して運営したり、各地区で住民が主体的にいきいき百歳体操を定期開催したり、空き家を利用した介護予防拠点などで、脳トレや趣味活動の機会が増えています。 高齢者支援センターに配置している生活支援コーディネーターが、上記のような住民主体の通いの場を側面的に支援し、参加者が増え、地域に定着してきている状況です。
		●介護予防のための運動や体力づくりを行います。	☆平成28年度まで一次予防事業または二次予防事業として実施し、平成29年度から一般介護予防事業として継続している事業	平成29年度から一般介護予防事業として再スタートした事業は、参加実人数が増加傾向であり、今後の利用状況を注視し、地域の自主的な集いの場やサークルなどに積極的につな

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	2 身体活動・運動	●社会参加促進のために生きがい活動の支援・活動の充実を図ります。	●健康運動教室（10回1コース） ＊H28一次・二次予防事業➡H29一般介護予防事業 ・内容：椅子を使った運動、栄養や口腔ケアに関する講話 （元年度12月末）3コース　参加者：実43人 （30年度）　5コース　参加者：実73人 （29年度）　5コース　参加者：実79人 （28年度）　4コース　参加者：実41人 （27年度）　5コース　参加者：実68人 ●水中運動教室（12回1コース） ＊H28二次予防事業➡H29一般介護予防事業 ・内容：水中運動、口腔ケアに関する講話 （元年度12月分）1コース　参加者：実25人 （30年度）　3コース　参加者：実71人 （29年度）　3コース　参加者：実83人 （28年度）　3コース　参加者：実58人 （27年度）　3コース　参加者：実61人 ☆平成29年度から通所型サービスに移行した二次予防事業 ●機能訓練教室（二次予防事業） （28年度）　参加者数：実13人　延　440人 （27年度）　参加者数：実17人　延　503人 ●生きがいデイサービス（二次予防事業） （28年度）　参加者数：実35人 （27年度）　参加者数：実40人 ☆平成28年度で終了した二次予防事業 ●口腔ケア事業（二次予防事業） （28年度）　0件 （27年度）　0件 ●訪問指導事業（二次予防事業） （28年度）　0件 （27年度）　0件	げていきます。
	3 休養・こころの健康	●こころの健康について情報を提供します。 ●こころとからだの健康相談を行います。 ●うつ病などの精神疾患の正しい知識と適切な治療に関する情報を提供します。	●こころの健康講座　年1回 （元年度） 「知っておきたいお酒とこころの関係」　32人 （30年度） 「大切な人がうつになったら ～うつ病の人とのかかわり方～」　45人 （29年度） 「うつ病とこころの健康 ～みんなで守ろう、大切な命～」　57人 （28年度）	うつ病・自殺予防を目的としたこころの健康講座の開催や各事業を活用し、障がいや病気に関する知識の普及啓発を図りました。令和元年度は、こころの健康講座の中に個別相談会を組み込み、希望者の相談に対応しました。今後も、適切な受診・相談行動につなげるよう、普及啓発活動を継続していきます。 こころの健康相談は主に受療相談、対応方法に関する相談となっています。今後も関係機関や家族等と相談しながら支援を行っていきます。 平成28年に自殺対策基本法が改正され、生きることの包括

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	３休養・こころの健康		「大人の発達障がいとこころの病気」　112人 （27年度） 「不眠で気づく心の病気」　61人 ●出前健康講座 （元年度12月末）0回 （30年度）　1回　参加数：14人 （29年度）　0回 （28年度）　0回 （27年度）　3回　参加数：59人 ・内容：うつ病の予防 ●こころの健康相談（千歳保健所・北広島市分） ・定例相談数（元年度12月末）　実 7人/延 8人 （30年度）　実 8人/延 9人 （29年度）　実 3人/延 4人 （28年度）　実 2人/延 3人 （27年度）　実 1人/延 1人 ●訪問指導（千歳保健所） （元年度12月末）　実 2人/延 5人 （30年度）　実 3人/延 7人 （29年度）　実 4人/延 5人 （28年度）　実 4人/延 4人 （27年度）　実17人/延39人 ●情報提供・ポスター啓発（再掲につき省略）	的支援として、全国の自殺対策が進んでいるところであり、当市の自殺者数も減少傾向にありますが、一層の推進を図るため、義務付けられた市町村自殺対策計画を、次期健康づくり計画に組み入れて策定していく予定とします。
	４飲酒	●健康教室や健康相談等にて多量飲酒の害に関する情報を提供します。 ●アルコールが及ぼす健康への影響について普及啓発を行います。 ●アルコール依存症に関する知識、情報を提供します。 ●アルコールの健康相談について情報を提供します。	●健診結果説明会（再掲につき省略） ●特定保健指導（再掲につき省略） ●重症化予防保健指導（再掲につき省略） ●健康情報展（再掲につき省略） ●北広島断酒会　例会参加 （元年度12月末）　9回 （30年度）　10回 （29年度）　12回 （28年度）　11回 （27年度）　12回 ●情報提供・ポスター啓発 ・アルコール依存症　30年11月	特定健診などの結果から、飲酒の適量や健康への影響について、個別に保健指導を実施しました。また、健康情報展などでパンフレットにて啓発に努めました。 また、酒害で同じ悩みを持つ人たちが参加する断酒会に出席し、お酒と向き合う会員の近況の把握やアルコール依存症への相談等を行っています。
	５喫煙	●健康教室や健康相談等にてたばこの害に関する情報を提供します。 ●禁煙について普及啓発を行います。	●健診結果説明会（再掲につき省略） ●特定保健指導（再掲につき省略） ●重症化予防保健指導（再掲につき省略） ●生活習慣病予防講演会（再掲につき省略） ●健康情報展（再掲につき省略） ●施設の分煙化・禁煙化（再掲につき省略） ●情報提供（再掲につき省略）	特定健診などの結果から、喫煙者に対しがん、循環器疾患、糖尿病等への健康の影響について、個別に保健指導を実施しました。また、健康情報展やホームページなどで喫煙の害と受動喫煙について啓発に努めました。 喫煙率の減少と健康増進法の一部改正により、望まない受動喫煙のない社会の実現に向け、継続的に普及啓発や禁煙指導の充実に努めます。

No.		計画の概要（行政の取組み）	令和元年度までの取組み	評価と課題等
ライフステージ	６　歯・口腔の健康	●「8020」「6024」運動を推進します。	●出前健康講座・健康教育（歯科） （元年度12月末）2回　参加数：57人 ・内容：健口の秘訣、健口教室 ～いつまでもおいしく食べるために～ （30年度）　0回 （29年度）　2回　参加数：27人 （28年度）　0回 （27年度）　1回　参加数：22人 ●健康運動教室 ・内容：健康で長生きするためのお口のケア （元年度12月末）3回　参加数：43人 （30年度）　5回　参加数：73人 （29年度）　5回　参加数：79人 （28年度）　4回　参加数：41人 （27年度）　5回　参加数：55人 ●生活講座 ・内容：おいしく食べるためのお口の手入れ （元年度12月末）2回　参加数：20人 （30年度）　2回　参加数：19人 （29年度）　2回　参加数：13人 ●水中運動教室（30年度～） ・内容：お口のフレイル予防 （30年度12月末）1回　参加数：25人 （30年度）　3回　参加数：71人 ●いきいき百歳体操リーダー養成講座（30年度～） ・内容：お口のフレイル予防、かみかみ百歳体操 （元年度12月末）2回　参加数：29人 （30年度）　2回　参加数：30人 ●情報提供・ポスター啓発 ・歯と口の健康週間　6月 ・歯と口の健康　30年11～3月 ・歯周病啓発　29年11月	生涯にわたり、歯と口腔の健康や口腔機能を保てるよう、肺炎を予防する口腔ケアや歯周病の早期発見などを健康講話等により周知に努めました。また、口腔内の衰えが全身状態の悪化、要介護へとつながりやすいため、新たに介護予防事業のプログラムに講話を盛り込み、口腔ケアの重要性について周知に努めました。 歯の喪失を予防するために、う歯予防とともに歯周病予防について、継続的に普及啓発していきます。